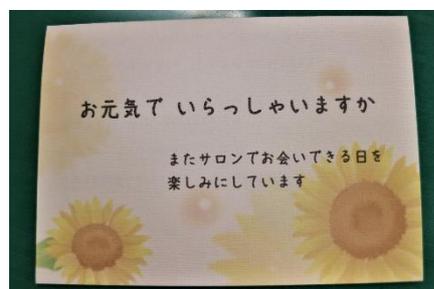


あったか笑顔の まちづくり通信

2021.6月発行



コロナ禍での活動紹介／つながり続けるための工夫紹介



昨年につき緊急事態宣言下の中、さまざまな地域活動が休止となっています。この状況の中でも、人と人のつながりが途切れることなく、お互いに気にかけて、支え合う活動が求められています。

コロナとうまく付き合いながらつながり続ける活動を一緒に考えていきましょう。

1	2	3
4	5	6

- 1 子どももしっかり感染予防
- 2 手袋をして楽しくコミュニケーション麻雀
- 3 サロン参加者へのお手紙
- 4 見守りカードの配布
- 5 消毒・検温のお願い
- 6 LINE(ライン)で地域情報の発信

コロナ禍の中でもできる活動を

平岩住民自治協議会生活福祉部会では、「地域の人みんなで支え合えるまち」をテーマに、コロナ禍の中でもできる活動を行ってきました。

つながり活動では、小学校の夏休みを利用して平岩地域食堂体験を開催、やまぶきの会(サロン)にも協力してもらい、感染症対策を徹底した上でカレーライスを作り、親子に楽しんでもらいました。子どもたちには手洗い動画や手洗いスタンプを使い分かり易く感染症予防について説明をしました。

毎年開催している地域施設交流会では、昨年は、残念ながら地域の方と施設職員・利用者が集まって交流することはできませんでしたが、「コロナでつながろう エールを医療従



事者へ」と題して松陽寮、広賀園・松籟園、つつじの利用者さんに塗り絵付きメッセージを作成してもらい、たくさんの方のメッセージが平岩地域センターに掲示されました。

また、「口の見えるマスクづくり」では、手話をする際にマスクをしていると口の動きが見えないという声を聞き、部会員、地域のボランティアさん、地域センター職員さんで協力し、口の見えるマスクを作成。作成したマスクは、手話サークルへ寄贈されました。

コロナ禍の中ですべての活動を中止するのではなく、「今自分たちでできること」を考え、形を変えながらつながりを絶やさない活動を続けます。

コロナ禍でも地域を

結ぶ取り組みを

三ツ城自治協議会西条中央支部は約3000世帯の地域です。集会所が無く、年に4回、商工会議所を借りてサロンを開催しています。

ご近所で集まることが難しい地域だからこそ、サロンの開催をとても楽しみにされています。メンバーは50名と大人数ですが、区を超えたつながりができることもこのサロンの良いところです。しかし新型コロナウイルスの影響を受け、昨年度はサロンが開催できませんでした。コロナ禍でもつながりを絶やさないよう、サロンを心待ちにされている皆さんにお手紙を作成され、外出できない中でも利用できるサービスをまとめた『ささえ愛べんり帳』と一緒に配布されました。



昨年10月には、第6回『三ツ城古墳 光の宴』が三ツ城自治協議会・光の宴実行委員会の主催で開催されました。感染防止のため、ステージは中止、灯火や物販等の規模も縮小し、受付では検温・消毒・名簿の記入など徹底した感染対策が行われました。キャンドルも例年より少ないということでしたが、ひとつひとつ灯されていく様子は幻想的で、中央中学校の生徒や地域の方の書道を用いた行灯もとても素敵でした。コロナ禍でも工夫されながら、皆さんの気持ちは明るくなるようなイベントや地域のつながりづくりに取り組んでいます。

離れていてもつながりあえる

LINEを使つての交流

原地域センターで行われている『原いきいきサークル』では、コロナ禍の対応で密にならないように参加者を20名程度の2組に分け、月曜日と木曜日に体操や歌、脳トレなどを行つています。しかし、新型コロナウィルスや気象状況の影響で中止にせざるを得ない事もあるため、1年ほど前より案内やお知らせなどを伝える手段のひとつとしてLINEの活用を始めています。

スマホを持ち、LINEをしております、グループLINEに参加希望の方を対象としていますが、地域センターの開催講座案内、自宅でもできる体操や脳トレ、地域情報など幅開くタイムリーに発信しています。



年配の方はスマホ所有率が低く、持つていてもLINEをしておられない方もいますが、LINEを活用

することで自粛中に実践してもらいたいことや気を付けてほしい事など伝えたい事が気軽にみてもらえます。そして、やり取りの中で皆さんの現在の状況を確認し合える。

もちろんすべてをLINEで解決しているわけではなく、つながりづくりのひとつのツールとしてこのLINE交流を行つています。「集まらなくても、お互いに気にかけて、つながりあっている。」色々な手段があると思いますが、進化・発展していく時代の中で変わらない「その人々を想う事」を日々考え、新しい事を実践しています。



助け合い体験ゲーム(志和町)／志和地域担当 尾崎

サロンで助け合いの地域づくり

志和地域では、昨年度4か所のサロン(尾崎いきいきサロンさん、サロンサルビアさん、ワイワイガヤガヤさん、猪伏サロンさん)から声をかけていただき、サロン活動の1環として「助け合い体験ゲーム」を実施しました。

「助け合い体験ゲーム」とは、カードゲームを通じて、普段の生活のちよつとした困りごとを「助ける」体験と「助けてもらう」体験を同時にしていただき、「地域の中での助け合い」の大切さを改めて感じ・考えてみていただくことを目的としているゲームです。



「地域の中での助け合い」と言葉でいうとなんだか難しく感じるのですが、ゲーム形式で体験してもらうことで、みなさん楽しみながら「助けること」と「助けられること」について体験していただけたように、ワイワイと和やかな雰囲気の中で行うことができました。

このゲームが、助け合いについて地域で具体的に考えてみる一つのきっかけになればいいなと思います。

ぜひ今年度も、いろいろな場所で「助け合い体験ゲーム」を開催したいので、声をかけていただければ嬉しいです。

手作りおはぎを高齢者へお届け

高屋町の稲木公民館で開催されている「稲木すいせんの会」は、平成12年から20年以上に渡り、サロン活動をされています。活動内容としては、主に、65歳以上の1人暮らし高齢者を対象に声を掛けて昼食会やゲーム、認知症予防の勉強会など開催しています。

昨年度は、コロナ禍で集まるのが難しいため、サロン代表者の足立さんを筆頭に世話人さんたち9名が集まり、手作りおはぎを稲木地域に住む65歳以上の一人暮らし高齢者世帯(70名)に見守りも兼ねておはぎを配って回りました。



初めての試みでしたが、あんこを均等に丸めたり、きなこを塗したり、容器に詰める作業など自然と分かれて、皆さん手際良く作業が完了しました。作成中は、「しゃもじにラップを

巻いたら、お米がしゃもじにつかんのんよ」「ご飯を炊くときに塩と一緒にいれとつたら味が均等になるんよ」「いろいろ勉強になるねー」と世話人さんたちも和気あいあいとおはぎを作りました。



その後、世話人さんが対象者の方へ手作りおはぎをお届けすると、とても笑顔で喜んでいる姿が見られました。手作りおはぎ以外にも、同対象者にお菓子と鉢花をプレゼントするために世話人さんが回られるなど、稲木地域の高齢者とのつながりを絶やさないう工夫や活動を続けています。

コロナ禍の中で
つながり 続けるために
いろいろ工夫してみましよう！

-  サロンや通いの場が休みで身体を動かしていない。
→体操のDVDや方法が書いた紙を送る。
-  食事会が開催できない。
→お弁当にお手紙を添えて配る。
-  外出自粛で地域の情報が入らない。
→広報紙やお役立ち情報を届ける。
-  手紙が一方通行、やりとりする工夫をしたい。
→返信欄を設けたり、川柳等の募集を試みる。
-  仲間の顔を見ておしゃべりしたい。
→テレビ電話やライン、Zoomなどでオンラインサロンを開催する。

お手紙の内容例

- 自宅でできる体操 ○健康レシピ ○4コマ漫画
- ワクチン接種等詐欺防止チラシ ○地域情報
- 今後の活動予定など

この他にも皆さんの団体でコロナ禍の中、工夫されている活動がありましたら是非、地域担当者に教えて下さい！

また、お手紙の内容や今後の活動について不安に思われたり、悩まれている場合にも担当者までお気軽にご相談下さい。

【お問い合わせ先／発行元】

東広島市社会福祉協議会 地域福祉課
TEL/082-430-8867
FAX/082-423-8525
E-mail/chiki@soyokazenet.jp